

# 令和元年度 横浜市立緑小学校「交通バリアフリー教室」の実施報告

## はじめに

- 横浜市都市整備局では、福祉の視点からバスへの関心を啓発し、利用を促進するため「交通バリアフリー教室」を行っています。緑小学校では、横浜市交通局緑営業所と連携し、緑小学校の近隣にある緑営業所にて実施しました。
- 緑小学校は、JR 横浜線 鴨居駅を最寄駅とし、横浜都心部との接続の良い地域です。
- 駅から離れた緑小学校の子どもたちは、駅方面に行く際の乗り物としてバスを身近な乗り物と認識しています。

## 1 交通バリアフリー教室の全体概要

- 交通バリアフリー教室は、横浜市都市整備局が担当する「バスのバリアフリー」に関する座学と、実際のバス車両や車いす等を使った体験授業を行いました。
- グループに分かれて、①バスのバリアフリーに関する座学、②バスを用いた車いす利用体験・介助体験、③バスを用いた高齢者疑似体験、④バスの乗り方に関する紙芝居及びバスの死角体験、を行いました。
- バリアフリーを始め、バスに関する様々な“知識”と、実際の“体験”を同時に行うことで、子どもたちのこれからの生活の中で「活かした知識」として根付くことを期待します。
- 横浜市都市整備局は、④の座学において、**バスのバリアフリーの現状や、モビリティマネジメントの大切さ**を伝えました。



緑営業所での実施



座学の様子



車椅子での乗降体験



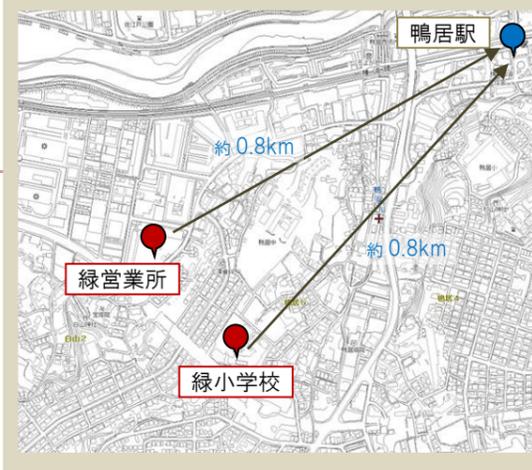
死角体験

### ■交通バリアフリー教室について

【日時】 令和元年 11月26日(火)  
第1～4校時(8:50～11:55)

【対象】 横浜市立緑小学校  
5年生 1～4組(152人)

【内容】 ①バスのバリアフリーに関する座学  
②バスを用いた車いす利用体験・介助体験  
③バスを用いた高齢者疑似体験  
④バスの乗り方紙芝居、バスの死角体験



## 2 「バスのバリアフリーに関する座学」の内容

- 座学ではまず、子どもたちのバスの利用状況や、身近なバス停などの状況を説明しました。緑小学校には、駅へ行くときにバスを利用している子どもが多くいるようでした。
- 次に、バリアフリーに関して、車いすの方もお年寄りも「誰もが使いやすい」を目指して取り組んできたバスのバリアフリーの現状を中心に授業を行い、**誰かのための特別な乗り物ではなく、誰もが同じように使えることが重要であることを伝えました。**
- また、「もっと知りたい バスのこと」と題して、バスの利用者が減少していくと「バスが将来、無くなってしまふ」可能性があり、「それによって困る人がいる」ことを、マンガリーフレットを用いて伝え、**モビリティマネジメントの大切さを伝えました。**
- 「行き先や状況に応じて、バスも上手に使って暮らす」ことが大切であることを伝え、授業を終えました。

### ■座学に用いた教材

①説明用パワーポイント:もっと知りたい「バス」のこと



②小学生向けマンガリーフレット



## おわりに

- 車椅子利用・介助体験や高齢者疑似体験では、子どもたちから「バスの乗り降りが怖かった」、「車いすに乗っている人の気持ちが少し分かったので良かった」といった感想がありました。
- バスの乗り方紙芝居やバスの死角体験では、バスを利用するにあたっての注意事項を学びました。運転席に座り、運転士さんの目線で死角を体感した子からは、これから道路を渡るときは、バスから離れて横断したいという声が聞かれました。
- 途中、天候が崩れる中、子どもたちはしっかりと集中し、バスやバスのバリアフリーについて、様々なことを学んでいました。



膝に重りをつけ、さらに目にはゴーグルをかけた状態でバスの乗り降りをする、高齢者疑似体験を行いました。

普段は座ることができない運転席に座って、死角を体験しました。

